



宮崎英修先生遺影

宮崎英修先生（得珠院日漸上人）

略年譜・主要著述論文目錄

宮崎英修先生（得珠院日漸上人）略年譜

年次 事蹟

大正二年 三月七日、兵庫県出石郡出石町田結庄に宮崎長造の三男として出生、幼名を修三という。

大正十一年 四月、出石町本高寺住職谷垣英定師の弟子となる。

昭和六年 三月、兵庫県豊中学校卒業。

昭和九年 三月、立正大学専門部宗教科卒業。

昭和十二年 三月、立正大学文学部宗教科卒業。

「修三」を「英修」と改む。

昭和十二年 四月、立正大学研究科入学。

昭和十三年 一月、鳥取四十連隊召集、入隊。

三月、独立混成第四旅団独立十二大隊四中隊天津において編成、従軍。

五月、叙僧都。

昭和十五年 四月、勲八等白日桐葉章叙勲。

昭和十八年 二月、敦賀連隊に帰還、召集解除。

昭和十八年 四月、立正大学学生主事補、香風学寮副寮監に就任。

昭和十八年 八月、叙大僧都。

昭和十九年 三月、谷垣英定師の次女慈子と結婚。

四月、立正大学文学部予科講師。

昭和二十年 四月、再召集。神戸連隊区司令部に勤務（九月まで）。

昭和二十一年 四月、立正大学文学部予科助教。

昭和二十一年 九月、高等学校高等科教員免許状「修身」取得。

尋常小学校正科正教員資格取得。

昭和二十二年 十一月十六日、長男英一生まれる。

昭和二十三年 四月、立正大学文学部講師。

昭和二十三年 四月、東京都秋川市（現あきる野市）宝清寺入寺（第二十四世、昭和三十年四月まで）。

昭和二十四年 日本仏教学会会員。

四月、少年保護司就任（昭和三十一年三月まで）。

昭和二十五年 一月二十日、次男英二誕生。

昭和二十五年 四月、「昭和定本日蓮聖人遺文」編纂委員（昭和三十四年十月まで）。

昭和二十五年 十一月、高等学校・中学校教諭一級普通免許状「社会科」取得。

昭和二十六年 四月、立正大学仏教学部助教。

昭和二十七年 日本印度学仏教学会々員。

昭和三十年 四月、出石町本高寺入寺（第三十九世）。

昭和三十一年 四月、立正大学内地留学規定により不受不施派研究のため内地留学（一年間）。

昭和三十二年 四月、日蓮教団史編纂会常任委員。

昭和三十四年 十一月、叙権僧正。

昭和三十四年 十二月、立正大学仏教学部教授。

昭和三十六年 四月、立正大学大学院仏教学専攻修士課程教授。

昭和四十年 四月、文部省科学研究費補助金により「不受不施派の源流と展開」を研究。

昭和四十一年 叙僧正。

昭和四十三年 四月、「日蓮聖人遺文辞典」編纂委員。

昭和四十三年 七月、論文「不受不施派の源流と展開」により立正大学より文学博士の学位を受ける。

昭和四十四年 四月、立正大学大学院仏教学専攻博士課程教授。

「望月学術賞」受賞。

四月、日蓮宗宗宝調査委員（昭和五十七年まで）。

四月、立正大学仏教学部宗学科主任（昭和五十一年三月まで）。

四月、日蓮宗現代宗教研究所所長（一年間）。

四月、日本印度学仏教学会評議員（昭和五十八年三月まで）。

日本仏教学会理事。

昭和四十七年 四月、立正大学日蓮教学研究所副所長（昭和五十一年三月まで）。

昭和四十八年 四月、「日蓮宗事典」刊行委員会編集主任（昭和五十七年三月まで）。

昭和四十九年 二月、日蓮宗高等試験検定委員会委員（昭和五十七年まで）。

四月、文部省科学研究費補助金による総合研究「近世社会における法華仏教の展開」の研究代表（翌年三月まで）。

昭和五十年 二月、日蓮宗教学審議会委員、日蓮宗宗宝審議会委員、日蓮宗甲種検定委員長（昭和五十七年まで）。

昭和五十一年 四月、立正大学日蓮教学研究所所長、立正大学大学院仏教学専攻主任教授、「日蓮聖人遺文辞典」編纂主任、石原育英会評議委員（昭和五十八年三月まで）。

昭和五十一年 四月、立正大学図書館長（翌年三月まで）。

昭和五十一年 六月、「日蓮宗寺院大鑑」刊行編集委員、監修者（昭和五十六年一月まで）。

昭和五十二年 六月、立正大学学園評議委員（昭和五十六年八月まで）。

昭和五十二年 十二月、立正大学教員海外研修規定によりインド・スリランカ仏蹟調査（翌年一月まで）。

昭和五十五年 四月、文部省科学研究費補助金による一般研究「室町期における日蓮教団の動向」を担当（翌年三月まで）。

昭和五十五年 七月、財団法人法華会評議員。

昭和五十七年 十二月、日蓮宗現代宗教研究所所長（昭和六十年七月まで）。

昭和五十八年 三月、叙権大僧正。

昭和五十八年 四月、立正大学名誉教授。

立正大学大学院文学研究科講師（非常勤）。

立正大学仏教学部講師（非常勤）（昭和六十三年三月まで）。

昭和五十八年 四月、日蓮宗由緒・靈蹟審議委員（平成九年三月まで）。

昭和五十八年 六月、古稀記念論文集「日蓮教団の諸問題」を贈呈さる。

昭和五十八年 六月、日蓮宗法功章受賞。

昭和六十年 二月、身延山短期大学学頭、同教授。（昭和六十三年三月三十一日まで）。

日蓮宗普通試験検定委員長。

昭和六十年 四月、叙任勸学職。日本印度学仏教学会・日本仏教学会理事。

昭和六十一年 十一月、勲四等旭日小綬章受賞。

昭和六十二年 三月、日蓮宗総合財団賞受賞。

昭和六十三年 四月、身延山短期大学長に就任。

平成元年 四月、立正大学仏教学会評議員。

平成二年 四月、日蓮宗勸学院長に就任（平成九年四月まで）。

平成六年 学校法人身延山学園理事。

平成七年 四月、身延山大学初代学長に就任（翌年三月まで）。

平成八年 三月、叙大僧正。

平成八年 四月、身延山大学名誉教授。

平成九年

八月九日、遷化。

平成九年

八月十日、密葬儀。

平成九年

十一月六日、本高寺において本葬。

平成九年

十一月二十日、身延山大学において学園葬。

宮崎英修先生主要著述論文目録

著書

波木井南部氏事蹟考

創価学会批判

法華經新釈

法華の殉教者たち

日蓮宗の守護神

禁制不受不施派の研究

日本の宗教第三卷「日蓮宗」

日蓮教団全史 上

七面山

苦しみを乗り越える力

新編日蓮宗信行要典

不受不施派の源流と展開

高僧遺墨集「墨」全三巻

孔官堂

日蓮宗宗務院

中山書房

平楽寺書店

平楽寺書店

平楽寺書店

宝文館

平楽寺書店

七面山敬慎院

教育新潮社

平楽寺書店

平楽寺書店

毎日新聞社

昭和二十五年十二月

昭和三十年八月

昭和三十一年九月

昭和三十一年十二月

昭和三十三年八月

昭和三十四年十一月

昭和三十六年九月

昭和三十九年十月

昭和四十年四月

昭和四十年九月

昭和四十一年十月

昭和四十四年九月

昭和四十五年六月
四十六年五月

共著

共著

編著

共著

共著

- | | | | |
|---------------|--------|----------------------|---------------------|
| 日蓮とその弟子 | 毎日新聞社 | 昭和四十六年十二月 | 平楽寺書店より
平成九年改版発行 |
| 「講座」日蓮 全五巻 | 春秋社 | 昭和四十七年三月、
四十八年十一月 | 共編 |
| 日蓮聖人研究 | 平楽寺書店 | 昭和四十七年十月 | 共編 |
| 日蓮宗の人々 | 宝文館 | 昭和五十一年十一月 | 編著 |
| 近世法華仏教の展開 | 平楽寺書店 | 昭和五十三年三月 | 編著 |
| 日蓮辞典 | 東京堂出版 | 昭和五十三年七月 | 編著 |
| 日蓮宗の祈禱法 | 平楽寺書店 | 昭和五十五年一月 | 編著 |
| 日蓮聖人御靈蹟 | 講談社 | 昭和五十六年七月 | 監修、解説 |
| わかりやすい日蓮宗の御祈禱 | 鎌倉新書 | 昭和五十七年二月 | 監修、解説 |
| 日蓮聖人のお弟子たち | 日蓮宗新聞社 | 昭和五十八年六月 | |
| 鬼子母神信仰 | 雄山閣 | 昭和六十年十月 | 編著 |
| 続・日蓮宗の人々 | 宝文館 | 昭和六十二年十一月 | |
| 竿の桜 | 本国寺 | 平成三年三月 | |
| 日蓮宗徒群像 | 宝文館 | 平成五年七月 | |

編纂書

昭和定本日蓮聖人遺文四卷

日蓮宗宗学全書史伝旧記部五卷

日蓮宗寺院大鑑

不受不施史料一卷・五卷（分担執筆）

日蓮宗事典（分担執筆）

日蓮聖人遺文辞典—歴史篇—（分担執筆）

論 文

日蓮聖人の大黒天信仰について

日蓮宗上代の伝道方策

開目抄の伝承と乾師本の価値について

室町時代における日蓮宗の自衛の展開

立正安国論諸本について

日蓮宗における訶梨帝母信仰の変遷

—鬼子母神・十羅刹女の融合と分離—

日蓮聖人の門下教育

天保年間における鼠山感応寺の興廢

身延山久遠寺

山喜房仏書林

池上本門寺

平楽寺書店

日蓮宗宗務院

身延山久遠寺

昭和二十七年十月

昭和三十四年十二月

昭和三十五年一月

昭和三十七年十月

昭和五十六年一月

昭和五十六年三月

昭和五十八年十一月

昭和五十六年十月

昭和五十六年五月

編纂委員

編纂委員

監修、刊行・編集委員

編集委員

編集主幹、

刊行・編集委員
編纂委員・編纂顧問

立正大学仏教学会

立正大学仏教学会

立正大学仏教学会

望月敏厚先生古稀
記念論文集刊行会

法華会

日本仏教学会

日本印度学仏教学会

立正大学仏教学会

昭和十九年十一月

昭和二十五年六月

昭和二十六年七月

昭和二十六年十一月

昭和二十八年三月

昭和二十八年四月

昭和二十八年九月

昭和二十八年十月

立正大学論叢一〇号

大崎学報九七号

大崎学報九八号

「望月敏厚先生古稀
記念論文集」

法華三九卷六号

日本仏教学会年報

印度学仏教学
一八号

研究二号

大崎学報一〇〇号

不受不施派の組織と統制

日本印度学仏教学会 昭和三十年三月

印度学仏教学研究
三卷二号

日蓮聖人の晩年の健康をめぐって

立正大学仏教学会 昭和三十年六月

大崎学報一〇三号

三宅島と不受流人僧

法華会 昭和三十一年六月

法華四二卷第六号

不受不施派の組織とその展開

—三宅島善勝庵過去帳に見る—

平楽寺書店 昭和三十一年九月

「日蓮宗不受不施派
の研究」
の研究」

不受不施派における清濁二法について

日本印度学仏教学会 昭和三十一年一月

印度学仏教学研究
研究九号

不受不施清規—内信者の日常生活—

日本印度学仏教学会 昭和三十三年一月

印度学仏教学研究
六卷一号

不受不施派の潜伏

身延山短期大学 昭和三十三年三月

棲神三二号

身池対論について

立正大学仏教学会 昭和三十四年二月

大崎学報一〇八号

下山抄の御真蹟について

立正大学仏教学会 昭和三十八年七月

大崎学報一一六号

日本における法華信仰と殉教史

— 鳩相試合記について —

平楽寺書店 昭和四十年六月

「法華経の思想と
文化」
護法」

五人所破抄について

日蓮宗宗務院 昭和四十一年十一月

大崎学報一二二二号

興門初期の分裂と方便品読不読論

立正大学仏教学会 昭和四十二年七月

大崎学報一二二二号

日蓮聖人遺文の文献学的研究

平楽寺書店 昭和四十三年三月

「近代日本の法華
仏教」

日蓮の宗教における一般性と特殊性

日本仏教学会 昭和四十四年三月

日本仏教学会年報
三四号

波木井殿御報「常陸の湯」について

立正大学仏教学会 昭和四十六年七月

大崎学報一二五号

不受不施派の人々

伝統と現代社

昭和四十六年八月

伝統と現代

不受不施派と天皇制

伝統と現代社

昭和四十八年十二月

「天皇制と日本の宗教」

日蓮の宗教における合理性と神秘性

日本印度学仏教学会

昭和五十年三月

印度学仏教学研究
第二三卷二号

江戸中期における諫暁活動

―了庵日雄の行動に見る―

身延山短期大学

昭和五十年三月

棲神四八号

不受不施派の名分論

久保田正文博士喜寿
記念論文集刊行会

昭和五十年九月

「宗教社会学とその周辺」

大石寺の板曼荼羅―その価値と成立―

月刊ペン社

昭和五十一年十月

月刊ペン一〇月号

殉教の人々（人間日蓮）

主婦友社

昭和五十三年四月

主婦友社デラックス
シリーズ四月号

日蓮教団史研究の課題

立正大学仏教学会

昭和五十三年九月

大崎学報一三一号

宿屋入道と宿屋光則

身延山短期大学

昭和五十五年三月

棲神五二号

富士戒壇論について

仏教史学会

昭和五十五年十二月

「仏教の歴史と文化」

不受不施派流僧の祈りと行法

日本印度学仏教学会

昭和五十六年三月

印度学仏教学研究
第二九卷二号

日蓮教団における教学論争―受・不受論―

理想社

昭和五十六年十月

理想一〇月号

観心本尊得意抄の真偽論

立正大学仏教学会

昭和五十七年三月

大崎学報一三五号

不受不施派の世・出倫理について

日本仏教学会

昭和五十七年三月

日本仏教学会年報
四七号

日蓮の反権思想と殉教の理論

青土社

昭和五十七年四月

現代思想第一〇六号

日蓮宗の不受不施論争

平楽寺書店

昭和五十八年三月

仏教思想史第五号

教機時国抄の大日仏陀—大日仏陀と大日能忍— 立正大学仏教学会 昭和五十八年三月 大崎学報一三六号

日蓮正宗の歴史と欺瞞性 真世界社 昭和五十八年六月 真世界六月号

日蓮聖人の仏法の特色 日蓮宗現代宗教研究所 昭和五十九年三月 現代宗教研究一八号

中世日蓮教団の制戒 平楽寺書店 昭和六十年九月 『法華仏教の仏陀論と衆生論』

新発見の御真蹟・上野殿御返事について 身延山短期大学学会 平成元年三月 棲神第六一号

『蓮三枚御書』と『棧敷女房御返事』の系年について

立正大学日蓮教学研究 平成四年三月 日蓮教学研究所紀要 第一九号

最蓮房伝考檢 立正大学日蓮教学研究 平成五年三月 日蓮教学研究所紀要 第二〇号

宗祖御遷化に関する二、三の問題 身延山短期大学学会 平成五年三月 棲神第六五号

法華経における差別と平等 平楽寺書店 平成五年十月 『法華経の受容と展開』

※ 右の他「新聞」「雑誌」類に多数の執筆をされている。